

平成 25 年度 第 2 回 東大阪市子ども・子育て会議幼保連携検討部会 議事録

日 時：平成 25 年 12 月 13 日（金） 13：30～15:00

場 所：総合庁舎 18 階大会議室

出席者：委員	10 名
（中川会長、吉岡副会長、大庭委員、阪口委員、笹原委員、竹村委員、廣瀬委員、古川委員、松葉委員、森田委員の代理：好川委員）	
事務局	9 名
（立花、田村、寺岡、奥野、関谷、川西）	
（松崎、今村、矢崎）	
傍聴者	2 名
業者（地域社会研究所）	2 名
	計 24 名

資 料：資料 1 ニーズ調査実施状況及びワールドカフェ～子育て座談会～意見集約

資料 1 参考資料 クロス集計表

資料 1 参考資料 保育所（園）・幼稚園所在地（中学校区）

資料 1 仮需給量算出用参考資料

資料 2 子ども・子育て支援事業計画への上申案策定イメージ

その他 ニーズ調査単純集計表（就学前・小学生・妊婦）

1 . 開会

事務局・寺岡

それでは、定刻となりましたので、ただ今から第 2 回幼保連携検討部会を開催いたします。本日は、大変お忙しい中お集まりをいただきまして、ありがとうございます。司会を務めさせていただきます、子どもすこやか部保育室の寺岡と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

最初に、お手元に配布いたしております資料のご確認をお願いします。

資料確認

もし不足等ございましたら、事務局にお申しつけください。

なお、本会議は議論の状況を速やかに公開するという観点から、議事録を後日、本市子どもすこやか部ホームページにて公開する予定です。また、会議についても公開を原則としておりますので、傍聴の方が 2 名いらっしゃることをご報告いたします。

それでは、中川会長、このあとの議事進行をお願いします。

中川会長

改めまして、みなさんこんにちは。

先月に第 1 回の幼保連携検討部会を開きまして、東大阪市における公立幼稚園、保育所また私立幼稚園、保育園の実践をお話いただきました。それぞれの立場からご意見をいただき、様々な観点で認識を深めていただいたのではないかと思います。就学前の育ち、その後の育ちにどのようなつながっていくのかという事を改めて考える機会になったと思います。

本日、午前中には親会議である子ども・子育て会議が第 3 回目として開かれ、部会の委員にも何人か参加いただいて、ニーズ調査の基本的な報告と多様な検討事項が出されて意見交換をしていただきました。非常にボリュームの多い内容で議論が進んでいました。

午後は幼保連携検討部会として幼保連携をどう考えていけたらいいかということについて意見交換をしていきたいと思っております。

会議にあたって、事前に配布された資料と本日、配布されました追加資料があるということです。

のでよろしくお願ひします。事務局から説明をいただきまして、みなさまから意見をいただきたいと思ひます。時間としては午後3時頃を終了時刻として予定してあります。

どうぞよろしくお願ひいたします。

2. 議事

(1) ニーズ調査およびワールドカフェの結果について

中川会長

それでは議事を進行させていただきます。

幼保連携の議事に入る前に、市民へのニーズ調査の速報値および市民との意見交換を行ったものがまとまっておりますので、議事1「ニーズ調査・ワールドカフェの結果」として、事務局より説明をお願いします。

事務局・関谷

- 資料1「ニーズ調査実施状況及びワールドカフェ～子育て座談会～意見集約」説明 -
 - ・ p.1 ニーズ調査の回収率について、前回（次世代計画）では47.5%で今回は51.2%。
 - ・ p.2～、「ワールドカフェ実施状況」としてカフェの雰囲気のような中で多くの意見をいただいた。 と に関して一時預かり・一時保育について多くの意見がでていた。 では仕事との関係性の意見等があった。 では再び一時預かり・一時保育についてと母親の精神的な負担感や経済的な支援について意見等があった。
 - ・ 来年の1月に再度、ワールドカフェを実施することを報告。
- 資料1「参考資料 クロス集計表」説明 -
 - ・ 平日の定期的な保育・教育事業の利用希望について幼稚園は56.3%、認可保育所が40.2%。
 - ・ 実施していない認定こども園について希望が9.5%ある。
 - ・ 就労していないが働く希望のある人が0～2歳で36.3%、3～5歳で30.5%。
- 資料「その他 ニーズ調査単純集計表（就学前・小学生・妊婦）」説明 -
 - ・ 1号認定、2号認定、3号認定に関する数値を説明
- 資料1「仮需給量算出用参考資料」資料1参考資料「保育所（園）・幼稚園所在地（中学校区）」説明 -
 - ・ 国から推計の指示が出ていない中で市として仮の案を提示。
 - ・ 0～2歳の待機がFに続いてB、D、Gでも多い状況
 - ・ 3～5歳の定員ではFに続いてB、Gで余っている状況

中川会長

ニーズ調査の量に基づいて確認されたいところを資料1として提出していただきました。

ワールドカフェでは質というか生の声を聴いた結果を資料として見てもらいました。

認可・認可外の供給体制がどのように分布しているのか、年齢やリージョンの違いも資料で提示いただいたと思ひます。

それぞれ確認されたいところ、どうぞご意見いかがでしょうか。

竹村委員

「資料1 仮需給量算出用参考資料」の3～5歳について幼稚園の実入所が掲載されています。就園奨励費の数ということでしょうか。それとも幼稚園が実際どれくらい入所しているという数でしょうか。東大阪市の市域付近にある幼稚園では市外の方の入園も多いと思ひます。そのような市外の方の人数も入っているのですか。

事務局・関谷

幼稚園の実入所数ですので他市の方も入っていると思ひます。

中川会長

他市の方も入っているということですね。

他にご意見や感想はいかがでしょうか。

吉岡副会長

「資料1 ニーズ調査実施状況及びワールドカフェ～子育て座談会～意見集約」に掲載されている意見は とありますが、実際の座談会（ワールドカフェ）の中で出たものでしょうか。主なものですか。

事務局・関谷

主な意見を掲載しています。

中川会長

7リージョンそれぞれでワールドカフェを実施していただきました。

これまでに実施されたのは平日ということです。働いている方、お父さんも含めて参加していただきやすいように、新年には改めて土曜日に開催されるということですね。関係する保護者の方への周知もよろしくお願いします。

吉岡副会長

ニーズ調査のように数値でみるものと実際に、直に声を聴くこと、この両方とも大切ですよ。ワールドカフェの意義は大きいように思います。直接、声を聴いて制度に生かすものだという意義はもっと伝えていきたいですよ。

中川会長

そうですね。ぜひ、こういった場に出てきていただきたいと思います。

広瀬委員

7リージョンで意見が偏ったり、違いが出たりしたのでしょうか。同じような意見ですか。

中川会長

リージョンの特性などはいかがでしょう。

事務局・関谷

リージョンごとに大きな違いはなかったように思います。利用しやすい形というような意見がでていました。各リージョンともどこでも一時預かりに関する意見が出ていたように思います。

竹村委員

教えていただきたいのですが、一時預かり・一時保育の制度というのはどういったものなのでしょうか。幼稚園で実施している預かり保育とは違う意見がでているようですね。

事務局・関谷

一時預かり・一時保育として民間の保育園、公立の保育所の一部で実施しています。家庭のご事情で要件を満たした場合にお預かりしています。病院に行くとか家庭のご事情ですね。事前に予備登録していただいて4時間内という形で費用をいただいています。国の補助事業の中で実施しています。ワールドカフェでの意見としては参加者の中に幼稚園に行っておられる方もおられたので部分的に預かり保育に関する意見も同じカテゴリの中で書いているかとは思いますが。

竹村委員

「一時保育・一時預かりが利用しにくい」という意見が掲載されておりましたのでお聞きしました。

幼稚園の預かり保育では通常、幼稚園を利用している方が利用しています。急な病気や兄弟の参観日などで利用しておられるのですが、それでも要件が厳しすぎるということなのかとお尋ねしました。

好川委員

一時保育というのは私のところの保育園では実施していませんが、実施されているところは0～2歳のニーズが高いと思います。お葬式などで一時的に預けられるというものです。0～2歳ということで病気やけが等をされた場合はどうするのかということもありますので登録していただいて利用していただきます。普段、保育所を利用されていなくて、急に連れてこられる場合がありますが、すぐに預けるといふわけにはいきません。急に一時的に利用されたい方や不定期で

突然受け入れるというのは保育園としても大変、勇気がいることです。確かに一時保育を利用されたい方というのは何らかの急な用事が出来て預けにこられるわけなのですが、園としては勇気がいるのです。

竹村委員

今のお話で一時保育の要件・前提がわかりました。通常預かっていないお子さんへのサービスということなのですね。だから急な場合に利用しにくいというご意見が出ているということですね。

幼稚園の預かり保育ではこれまで実施してきたように普段、日常預かっているお子さんに対する一時的な預かりです。一時預かり・一時保育というのには普段預かっていないお子さんの急な対応も入っているということなのですね。

幼稚園の預かり保育に関しては、認定こども園では新しい制度の中で一時預かり事業を活用してもよいという国の話があったと思うので質問させていただきました。

松葉委員

ワールドカフェの結果について 41 人の方々の詳しい意見がでていたというのはよくわかったのですが、ニーズ調査の結果の分析をもっとしっかりとしていけないように思います。

先ほどお話しがあったように幼稚園で考えて行くことと保育所（園）で考えていくことは違うように思います。

幼稚園でしたら日頃預かっているお子さんの兄弟姉妹の様子までわかります。しかしどこにも属しておられない方が保育所（園）の一時保育を利用されるのかもしれないですね。調査結果をみると、何歳からという質問に対して3歳以上になったら保育所（園）や幼稚園に通わせたいという人がけっこういらっしゃいました。ニーズ推計に関して今日の説明ではこれから就労されたい方にポイントが当たっているように感じました。今回の新制度、そしてこの計画ではどこにも属さない方が日常的にどこかに属すようにするためにどのようにしていくのかがすごく大事だと思います。そういう意味ではワールドカフェの意義はとても大きいと思います。この会に行けば意見を言えると思って参加された方も多いと思います。新しい施策を考える機会にもなるのだと周知してもっと参加していただけたらよいと思います。また、これからどのようにワールドカフェを継続されるのでしょうか

事務局・関谷

調査結果の数量としては分析の重きをニーズ調査に求めていきたいと思います。ワールドカフェでは生の声を拾うということを大事にしました。

今回は計画策定のために設置しましたので、このような場を継続的に設置するかは検討中ということになります。とりあえず1月、あるいは夜といった案はあります。

中川会長

質的なものとして生の声を聴いたということですね。他市ではこのような質の調査をなさっていることは少ないので、東大阪市では丁寧になさっていると思います。

量の部分はニーズ調査で賄っていて、なぜヒアリングというような事をしたかということ、ニーズ調査の自由意見もありますが、声を出しにくい方からも多様な意見をいただくためということですね。アンケートを書きただけでなかった人の声も拾えたらということですね。

実際にみとみると率直な声が多く出されていたと思います。

7リージョンごとの地区別で違いがあるのかというのはもう少し着目してもよいかもしれませんね。

ワールドカフェは生の声という位置づけで理解したいと思います。

笹原委員

ワールドカフェの意見の中に「安価な一時預かりが必要」という意見があります。妊娠、出産費用に対しても軽減といった意見があります。費用のこと、お金のことができています。

サービスを知っていても高ければ利用できない人がいるように思います。

みなさんに利用できるようなお金の基準といったものが必要かもしれませんね。

好川委員

私たちの園では1日3000円をいただきますが、実施する側としてはやはり費用は必要なので高いとは思っていないのですが。

笹原委員

実際に運営されている方には費用が必要だと思います。その辺りとの兼ね合いをどのように考えていくべきでしょうか。

中川会長

お金の基準とか妥当性をどのように考えていくかということはありませんよね。

経済面とその支援についてはニーズ調査の中でクロス集計をかけていくべきかもしれませんね。どのような人たち、層がいるのかは確認していく必要がありますね。

また安全を担保しながらということも大事ですよ。

ニーズ調査についてはクロス集計もありますので、今後でも結構ですので、このような層についてはわかりやすくといったご意見も事務局の方へお願いしたいと思います。

好川委員

「資料1 仮需給量算出用参考資料」のp.1で例えば孔舎衛では「実入所者数」の列が64人、その隣の「実入所数」が85人となっています。それぞれの数字の意味合いを教えてください。

事務局・関谷

64人とは「実入所者数+待機児童」で85人とは「実入所者数+未入所児童」を表しています。

中川会長

保育所、幼稚園がプロットされた図には拠点がどこに整備されているかも配置していただけたらと思います。

そうしましたら、そろそろ次の説明を聞きたいと思います。今の議題で追加の意見がありましたら、説明後にまた出していただけたらと思います。

(2) 子ども・子育て支援事業計画への上申案策定イメージ

中川会長

それでは、続きまして今日の会議の主な議題である、議事2「子ども・子育て事業計画への上申案策定イメージ」を事務局より説明願います。

事務局・川西

- 資料2「子ども・子育て支援事業計画への上申案策定イメージ」説明 -

- ・ p.1、「1. 上申案の構成」の確認。
- ・ p.6、公の果たす役割の整理として「地域の子ども・子育て支援強化」「民間園に対する連携の工夫」「強みに応じた役割再編」「要保護児童・要支援児童に対する手厚いサポート」あわせてp.8以降での詳しい説明。
- ・ p.7、公立と民間の機能再編のイメージ
- ・ p.10、7箇所の拠点施設としての子育て支援センターや幼保連携型認定こども園に関すること
- ・ p.11、家庭訪問（出前相談サービス）などのアウトリーチ型の支援について
- ・ p.12、ソーシャルワーカー等を通じた支援など要保護児童・要支援児童に関する支援について

中川会長

ご説明ありがとうございます。

資料2「子ども・子育て支援事業計画への上申案策定イメージ」についてp.6の公の役割や将来像、p.13には議論の視点がありました。

子ども・子育て支援事業計画への上申案に対して意見ををお願いします。

笹原委員

「公立と民間の機能再編のイメージ」について公立の将来のイメージを語るにはそのイメージ

を委員の方々と一致させていかないといけないのではないのでしょうか。特に p.7 に掲載されている図です。この図の現状はわかるのですが、将来像では今の公立の役割、そして民間の役割はなくなっていくということでしょうか。お話でも保育は民間というようにも思えたので公立の保育は今の形ではなくなってしまうのでしょうか。幼保連携型という話は確かにあるのですが、公立と民間の読み取り方を詳しく説明していただけないのでしょうか。

事務局・川西

今、現状の公立施設について、公立施設が公の役割をすべて担っているのではないと思っています。それぞれ公立、民間で公に果たすべき役割を色々と頑張ってください。民間で色々な力を持っておられる場合もありますし、例えば子育て支援センターを公立で設置して公の役割の一部分を担っていただいたりもしていますので、それぞれの強みをどのように生かしていくのかを考えていこうとしています。将来像として公立でこのような役割を完結しようとか、民間でこの4つの役割を完結しようとかいうものではありません。市全体でお互いの役割の強みをどのように生かし、それぞれ何に注力していくのかを考えていきたいと思えます。

笹原委員

この図と今のお話をもう少し詳しく教えてください。

中川会長

この図は最終の完結系ではないのですよね。それぞれがやっていたことをどのように再編するのかということですね。将来像としては公立と民間で何に注力するのかということを表しているのですね。重なっている部分は連携を表していますね。

詳しく文章化されているのが p.8 以降ですね。公立の将来像として、「地域の子ども・子育て支援強化」とか「民間園に対する連携」「要保護児童・要支援児童に対する手厚いサポート」などを考えておられるということですね。

笹原委員

3ヶ所しかない子育て支援センターをもっと増やしていき、公立保育所などを子育て支援センターのようにしていくのはよくわかります。

例えば私のところでは2階は子育て支援センターで1階は保育所となっています。要するにセンター化していくということなのか、この場合、2階の機能は残して1階はどうなるのでしょうか。

事務局・川西

イメージ図のようにこのままはっきりと分かれるという意図ではありません。

当面は待機児童対策が重要になると思えます。そのために幼保連携型こども園という議論があると思えます。

ただし、将来的にはどこかのタイミングで待機児童が無くなっていくことがあると思えます。この際に公立保育所を無くすということではなくて、通常の保育をする量が減るのであれば、その力を在宅支援や民間園のバックアップへと段階的に進むことができると考えています。市、全体的として注力することを分散していければと思います。

吉岡副会長

この図に問題があるのかもしれませんが。

p.7 の右側では公立、民間にそれぞれ4つずつのキーワードがあるように見えます。公立と民間とでそれぞれ4つずつの役割ということなのではないのでしょうか。4つずつをはっきり分けるということではないのよね。色合いを分けたいということではないのでしょうか。

事務局・川西

4つずつに分かれているのはそれぞれ強みとなる部分を強調して書いているだけです。最初から4つずつに役割を分けてしまうということではありません。

吉岡副会長

4つずつに分けてしまうと違和感があるのかもしれませんが。教育・保育は民間だけの強みと

誤解を与えてしまうのかもしれませんが。

事務局・田村

大前提として今回の支援システムでは「3歳以上の子どもすべてに保育・教育の環境を与えること」「0～2歳の待機児童の解決」「在宅支援をどうするのか」が3本柱となっています。

国はまだニーズ推計の手引きを出していませんので、今回の資料は市として仮の案を出した状態です。あくまで国のニーズ調査は東大阪市で1号認定、2号認定、3号認定がどれくらいいるのかを出すようなものです。それにあわせて受け皿をどうしていくのかを計画で考えていきます。

それから、ワールドカフェは件数が少ないように思われるかもしれませんが、地域子ども・子育て支援事業に関するをお聞きしていただき、在宅で子育てしている家庭のご意見を把握するために実施しました。

そしてこのようなニーズに対して、どう対策をしていくのかを考えるということになります。

それはどのように公立、民間、保育所(園)、幼稚園を再編していくのかを考えるということです。なぜなら、やはりお金は限られるわけですし、どこに効果的に費用・負担を投下していくのかということです。

3歳以上の教育については認定こども園、幼稚園などが中心となるでしょうし、待機児童については保育所(園)、認定こども園、小規模保育などを考えていく、そして「地域子ども・子育て支援事業」を考えるという3つがテーマです。

今、言いました3本柱の中で民間では2本ぐらいでしたら補助金も含めてやっていただきやすいのかなと思っています。3本とも民間でやっていただくには補助金のこと民間の負担の面でもしんどいところがあると思うので1本は公立が中心としてやっていこうということです。何に重きを置くのかを考えていただくという投げかけを本日はさせていただきました。

今は公立と民間の役割がかなり重なりあっています。この状態を少しずつ役割分担して各施設の強みを何にしていくかを議論していかないといけないと思っています。

中川会長

今、現在は公立と民間の役割がほとんど重なりあっているわけですね。

3歳以上の教育・保育、0～2歳の待機児童、在宅の支援というように、どの役割をどこが中心となって分担していくのかということですね。

笹原委員

3本柱は今、市として必要だと思います。

ただ一つ確認したいのは、もともとこの部会は少子化をどのように防ぐのか、それぞれの役割として何が必要なのかを検討すべきものだと思います。合計特殊出生率が1.27となった時の衝撃は忘れられません。今、そこにある待機児童の問題は確かに解決しなければなりません。どのようにしたら、お子さんを生んでもらえるのかを大前提に進めていっていただきたいと思います。少子化対策も一緒に進めていく議論になってほしいと思います。

松葉委員

幼稚園の状況を上手にお伝えしなければならないと思っています。

幼稚園に通う方はお子さんが0～2歳の時は就労していない方が多いです。幼稚園に通われている方は1人っ子という場合は少なく、ご兄弟が多くおられます。お子さんが多いというこの状況を1つの参考、ヒントにさせていただくのもよいのかなと思います。在宅で子育てして凄く頑張っている方は支援にもともと結びつこうとされていないので、それに対応できるものが福祉分野にはなかなかあがってこなかったのだと思います。在宅で子育てをする方々や幼稚園に通われている方に関して、そのニーズや現実ワールドカフェでも意見としてもあがっていると思います。そのような在宅支援に関するニーズを拾っていければと思っています。

例えば在宅で子育てするのにそれほどお金はいらないのです。それよりもどのように子育てをしたらよいかわからないとか不安といったものはあるのです。3歳までは自分で育てようと思えるのですが、妊婦の時から、また0～2歳の間、私の子育ては間違っているのではないかと思

って、幼稚園に相談に来られる方もおられます。

このような方々向けに現存している公立幼稚園の空きスペースを活用してはどうでしょうか。園庭解放をすとか。子育て家庭の近くに公的な施設があって、支援していくとよいのだと思います。先ほどから出てきた少子化対策のためにも生み育てていけるような環境を作っていく。在宅の子育ての力が上がれば待機児童の解決にもつながるように思います。在宅での子育ての力が足りなくなって、地域でも子育ての力が少なくなっているのです、その辺りに目を向けていただくとよいように思います。

中川会長

幼稚園には兄弟のたくさんおられる場合が多いという状況をお話いただきましたね。

フルに働きたいというお母さんだけではなくて在宅で少し働きたい人への対応もありますよね。就労希望の層についてはクロス集計によって、経済的に問題がある層なのか少し働きたい層なのかなども把握していく方がよいかもしれませんね。就労意向という方の層をよくみておきたいと思います。

東大阪市で子育てを楽しめるようにするために限られた財源の中でどこに注力していくのかということを考えていきたいと思います。

それでは、本日、まだご意見をいただいていない方に発言をお願いしたいと思います。

阪口委員

先ほどお話があったように、根本的に子どもが減っていくことを前提に議論が進んでいることに危惧がありました。

保護者が預かり保育の間にまとめて買い物をされている様子があります。収入ももう少しだけ増えればよいのにとっておられる場合があります。もうちょっとほっとできる場があればお子さんを増やせるといのであれば、今ある資源の中では幼稚園をもう少し活用できるのではないかと考えています。もう少し長く幼稚園に預けられたらとっておられるようにも思います。そういう意味では今ある幼稚園の施設で朝と夕方の支援ができればよいのではないかと考えています。

幼稚園としては就学につながることを意識しているのが強みかと思っています。0～2歳のノウハウは少ないので3歳以上での対応については公立幼稚園がやっていけると考えています。

今日、私のところの幼稚園では親子参観がありまして下のお子さんも連れてこられています。アンケートでも高い結果が出ているように、このような親子と一緒に集まれるような場についてもっと充実していくとよいように思います。

大庭委員

認定こども園について、まずは既存の施設の中から実現可能なところを実施していただくのであれば実現できるのではないかと考えています。ニーズ調査の結果として、就学前児童のいる家庭の内、56.3%が幼稚園を希望しているという状況に少し驚きました。経済的にもしんどい方もおられます。また障害等で特別な支援が必要なお子さんについて地域の小学校へ通わせたいという希望を持つ親御さんの場合、まずは地域の公立幼稚園へ通わせたいという希望を持たれます。このように支援が必要なお子さんの場合、幼小中連携ということで地域での支援が必要なのだと思えます。

中川会長

公立としての役割ですね。

古川委員

一時預かりについて、これから就労されるので利用したいという希望が多くあります。しかし一時預かりは9時から17時までなのでもう少し延長がないとフルタイムの仕事には対応できません。

また要保護・要支援の児童について、親子で向きあっていてしんどいのであれば保育所（園）や幼稚園で少し預かって、生活を立て直していくということも大事だと思っています。

中川会長

本日はみなさんから幼保連携についてどこに注目するかを意見いただきました。

新システムに関する3本の矢に加えて、やはり東大阪市で子どもを生み育てていくという視点を大事にすべきという意見もいただきました。少子化対策がベースにあるということですね。

在宅や幼稚園のニーズも大事だという意見もいただきましたね。

廣瀬委員

この会議について、次の会の議題は上申案の検討へと進んでしまうようです。少し早いのではないのでしょうか。上申案ではなくもう少し協議したいと思います。

事務局・川西

親会議でも同じ意見が出ています。

会議についてはもう少し増やしていく方向で前向きに考えたいと思います。

中川会長

1回の時間の量を増やすということもあるかもしれませんね。委員から検討のポイントを事務局へ送っていただくのも大事かもしれませんね。

事務局・川西

親会議でも意見を提出していただいていますので、意見を更にいただいた際には皆さんへその内容をお返ししていきたいと思います。

3. 閉会

中川会長

これで本日の議事は全て終了となります。

時間ということですので、本日の私の担当部分を終了させていただきます。

事務局・寺岡

ありがとうございました。第3回の会議でございますが、1月17日(金)午後開催を予定しております。日程が正式に決定次第、御案内を差し上げます。

本日は長時間のご審議ありがとうございました。

閉会